

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873100560		
法人名	株式会社 ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	川西ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県川西市出在家町22-7		
自己評価作成日	令和4年2月4日	評価結果市町村受理日	令和4年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年3月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもとで、認知症の進行緩和、心身状態に合わせたケアを心掛けております。医療機関との連携を図り、その人らしく暮らしを続けることを支援しております。馴染みの関係、家族の思いを大切に、看取りも受け入れております。誤嚥性肺炎を予防するために、口腔ケアを徹底し、経口摂取で食事を召上がって頂くよう取り組んでおります。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通の便がよく生活に便利な立地である。季節感・生活感・清潔感が感じられる家庭的な環境で、菜園での園芸活動も行っている。利用者の希望・季節感・行事食を取り入れた手作りの食事を継続し、食事の変化を楽しむ機会も設けている。PDCAサイクルにもとづくケアマネジメントが機能し、介護計画書に沿った「介護援助計画表」により介護手順や留意点を共有し、利用者個々の現状に即した個別支援に取り組んでいる。ライン面談・諸要件に配慮した面会・「そよ風新聞」等、家族とのつながりが継続できるよう支援している。訪問診療・訪問看護等との医療連携を密にし健康管理・早期対応に努め、また、家族の希望に応じて看取り介護にも対応している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に「私たちは世界一のしあわせ創造企業を目指します」を掲げ、認知症ケアを追求しております。	法人の理念・基本方針を共有している。事業所独自に、「グループホーム3大ポイント(家庭的な温かさ・安心の医療体制・季節を味わえる環境)」を策定し、法人理念・基本方針とともに、事務所・玄関等に掲示し、日々目にして共有できるよう取り組んでいる。新入職時オリエンテーションで説明し、法人・事業所の理念や方針について共有と理解を図っている。家庭的な雰囲気、季節を味わえる環境づくり、医療連携体制の整備等、3大ポイントの実践につなげるよう努めている。	地域密着型サービスの役割・意義を、「3大ポイント」等に取り入れてはどうか。また、職員と共に理念等の実践状況を定期的に振り返る等、理念の実践に向けた具体的な取り組みが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ影響により地域イベントは控えている状況。	通常は、買い物・外食・季節ごとの外出行事等、地域に出かける機会を設け、また、音楽療法・ギター演奏・歌・盆踊り等、定期的なボランティアの来訪があり、地域交流に取り組んでいる。令和3年度はこれらの外出や交流を休止しているが、地域包括支援センターと連携して困難事例を受け入れ・地域からの介護相談対応・近隣の畑を通じた住民との交流・AED設置(ステッカー掲示)等、可能な方法で地域交流・地域貢献の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	困難事例の受け入れなどを積極的に行い、心身共に健やかな生活を送って頂けるよう多職種協働で行いました。		

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や、地域包括支援センター職員の方々のご意見やご要望を伺い、それらを職員と共有することでサービスの質向上に努めています。(コロナ影響により書面でお知らせしております) 家族様には、電話の際など意見いただくよう努めております。	コロナ禍以前は、家族・地域包括支援センター職員・事業所からの参加者を構成委員として年に6回開催し、多数の家族の参加があり、会議での意見や情報をサービスや運営に活かしている。令和3年度は、すべて書面開催として実施している。利用者状況・行事・感染予防対策・面会対応等を記載した議事録を作成し、地域包括支援センター・全家族に郵送して報告している。議事録の中で意見等があれば電話での連絡を依頼し、意見等があれば次回の議事録に記載し共有している。玄関に議事録ファイルを設置して公開している。	コロナ終息後には、知見者・地域代表者の参加、また、可能な範囲で、利用者の短時間参加を検討し、構成委員の充足に取り組みされることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で判断せずに、不明点は問い合わせを行い、実地指導においても実情を報告し相互理解を図っております。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターと連携を図っている。市・保健所等から新型コロナウイルス関連の情報提供を受け、感染予防対策に反映している。不明な点等があれば、適宜、市の担当窓口にお問い合わせ、回答や助言等を得て適切な運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、防犯上のこともあり施錠しておりますが、センター内でも研修を行い、利用者の安全を図りながら自由な暮らしを支援しております。	「身体拘束等の適正化のための指針」とマニュアルを整備し、身体拘束をしないケアを実践している。全体会議の中で、毎月「身体拘束適正化・虐待防止検討委員会」を実施し、身体拘束事例0件の確認と、スピーチロック防止等適正化に向けた検討を行っている。委員会議事録の回覧により、職員への周知を図っている。「身体拘束適正化及び高齢者虐待防止」研修をチェックリストを使用して年2回実施し、参加できなかった職員にも資料を配布し、報告書の提出により周知を図っている。玄関は開錠操作が必要であるが、利用者に出向の意向があれば、敷地内の散歩、ユニット間の移動・ベランダでの気分転換等、閉塞感を感じないように支援している。	

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議にて研修を行い、ご家族様からの意見も反映させながら知識・意識向上と虐待の防止に努めております。	上記「身体拘束廃止」と同様に、研修・委員会により「高齢者虐待防止」に取り組んでいる。法人全体で「NG(no虐待)プロジェクト」を実施し、ポスターを事務所に掲示し意識向上を図っている。気になる言葉かけや対応等があれば、管理者層からや、職員間でも注意喚起し、不適切ケアの未然防止に取り組んでいる。相談しやすい職場環境づくり、随時の個別面談、ストレスマネジメント研修、希望休・有給休暇取得の促進、シフト作りの配慮等、職員のストレス等がケアに影響しないように配慮している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議研修にて学ぶ機会をもつと共に、成年後見人制度の必要性を理解し、情報提供が出来るよう取り組んでおります。	権利擁護に関する制度について、「成年後見制度について」研修で、資料と問題形式により研修を実施している。現在、成年後見制度を利用している利用者があり、後見人への状況報告や金銭管理書類の提供、面会対応等、制度利用を支援している。今後も、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者・介護支援専門員等が制度説明・相談等に対応し支援する体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、契約時に重要事項説明書に沿った説明を行い、不安や疑問の解消を図っております。その都度質問に対してはお答えしております。	見学時に、パンフレット・料金表をもとに、サービス内容・利用料金・事業所の特徴等について説明している。契約時には、管理者が、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。特に重度化・終末期対応や入院時対応については、別紙で具体的でわかりやすい説明に努め、不安の軽減に努めている。契約内容の改定時は、改定内容を説明した文書を作成し、電話や来訪時に説明した後に郵送し、文書で同意を得ている。	

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様面会時などで要望聞くこと、ご意見箱の設置の他それらを各種会議にて共有し、ケアの向上を図っております。	通常の面会や交流が困難な状況であるが、予約制で面会場所・時間等に配慮した面会等、時期、状況を考慮して面会の機会づくりに努めている。面会時・来訪時・電話連絡時に利用者の近況を伝え、毎月「そよかぜ新聞」を郵送して写真付きで利用者の様子を伝え、家族の意見・要望の把握に努めている。把握した内容は、「連絡ノート」・ユニット会議で共有し、利用者支援や介護計画に反映している。また、年1回家族アンケートを実施し、集計結果を運営や利用者支援に反映している。運営推進会議開催時には複数の家族の参加があり、外部者へ意見等を表せる機会を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は各種会議で状況の把握や検討の他、個人とも話す機会をもち運営に反映できるよう努力しています。	毎月、全体会議・ユニット会議を開催し、職員の意見・提案の把握に努めている。令和3年度は、全体会議は、時期に応じて書面、または、集合開催で実施し、事業所全体での情報共有、委員会、研修等を行っている。ユニット会議は集合開催し、ケアカンファレンスや業務等についての検討を行っている。検討内容や結果を会議録回覧により周知し、職員の意見をケア・サービス・業務等に反映している。日々の検討事項や共有事項等があれば、連絡ノートで共有している。センター長が定期的に年1回、また、随時にも管理者が個人面談を行い、個別に職員の意見等を聴く機会を設け共有している。法人に相談窓口を設置し、職員が法人に意見を直接伝える仕組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業部長に対して都度相談し、センター訪問して頂き職員と話す機会を作り、環境整備に努めています。		

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社でも年間研修を実施しており、センター内でも全体会議にて研修を活かし介護質向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内にて協議会参加し、サービス質向上のため情報交換行っております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の生活歴を把握し、信頼関係築くことに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の立場に立ち、まず傾聴を行っております。ご家族様の思いを尊重したうえでサービスの特色をお伝えし、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	診療情報確認、事前面談と入所判定会議において初期対応の見極めと支援に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手を尊重した声掛けと対応により、「利用者本位」「自立支援」という介護保険の根幹を意識して日々の生活を一緒にさせて頂いております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	チームケアを推進していくうえで、ご家族様の思いなどは尊重させて頂いております。		

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の来訪・電話など以前の関係が継続できるよう、職員が間に入りながら支援しております。	馴染みの人や場所について、入居時に把握した情報は「アセスメント表」に、日々の会話等入居後に把握した情報は連絡ノート・介護記録で共有を図っている。通常は、家族・親戚・友人等の来訪があり、家族同行での馴染みの場所への外出等を支援している。コロナ禍のため通常の面会や外出は休止しているが、制限付き面会・ライン面談・「そよかぜ新聞」・暑中見舞いや年賀状のやり取り等、可能な方法で馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人生観・価値観がお一人ずつ違う中で、食事や余暇の時間など、心地よい距離感はどこにあるのかを意識して、関わり合いや支え合いに努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご本人とご家族の経過をフォロー、利用時の状況や介護の工夫、好みなどを伝え、連携がスムーズにいくよう配慮しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に多くの情報と意向を集め、カンファレンスにて「望む暮らし」「なりたい自分」は何なのかを検討し把握に努めております。介護計画書更新時に、家族様から得た情報を反映しております。	利用者個々の暮らし方の希望や思い・意向を、「アセスメント表」(定期的に更新)や介護記録で共有を図り、内容に応じてユニット会議でも検討し、介護計画や生活支援に反映できるよう取り組んでいる。意向の把握が困難な場合は、表情や反応から汲み取ったり、家族からの情報等を参考に、思いや意向に沿った支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取りの他、これまで関わっておられたケアマネージャーが居られればその方にも連絡を行い、これまでの暮らし方やサービス利用時の様子の把握に努めております。		

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活習慣やこだわりを大切に して、スタッフ間での報連相と情報の共有を行 う事で、現状の把握に努めております。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎月実施するカンファレンスとミーティングを 行い、ご本人とご家族の要望を反映させた 介護計画が作成できるよう取り組みを行っ ております。計画作成担当者が策定し、ケア マネージャーが確認しています。その後、計 画書を家族様に送り、内容を電話で説明後 同意を得ております。	入居前情報や「アセスメント表」をもとに担当 者会議を開催し、初回1ヶ月の「介護計画書」 と「介護援助計画」を作成している。「介護援 助計画」は概ね介護計画に連動した内容で、 介護内容別にの個別の手順や留意点を記載 している。日々のサービス実施は「モニタリン グチェック表」に、生活状況等は「介護記録」 に記録している。「モニタリングチェック表」へ の入力により、利用者個々の計画内容の周 知を図り、計画に沿った実施を記録してい る。定期的には、3ヶ月毎に介護計画の見直 しを実施し、ユニット会議の中で該当する利 用者についてカンファレンスを実施している。 介護計画見直し時は、「モニタリング総括表」 でモニタリングを、「介護援助計画」の評価を もとに再アセスメントを行い、担当者会議を 実施している。本人・家族等の意見・希望は 介護計画に記載し、かかりつけ医の意見等が あれば担当者会議録に記載している。「アセ スメント表」は、概ね1年毎に更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	その人にとっての介護計画を作成するに当 たり、ありのままを個人記録に記録、情報の 共有を図る事で介護計画の見直しに役立 てております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携が必要な方が増えておられる 中で入院される方も多いです。退院時など はご家族とも協議し、その都度生まれる ニーズに柔軟に対応できるように組み 組んでおります。		

川西ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により地域の催し事に参加はできおりませんが、畑を通じて近所の方と交流はあります。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の指示に迅速に対応できるよう職員間での連携は図っております、川西市のバイタルリンクの活用も図っております。	入居時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診を支援している。2週間に1回内科医による訪問診療、希望者には週1回歯科・月1回心療内科等の訪問診療、また必要に応じて皮膚科の往診を受けられる体制がある。通院による受診は、緊急時以外家族が同行することを基本とし、「介護看護サマリー」等で情報提供を行っている。事前の情報提供も含め、医療に関する事項は、「医療機関受診の記録」、システム内の「介護記録」で共有している。訪問看護師への連絡事項等を「訪問看護師との連絡表」に記録し、情報共有と医療連携を図っている。市のバイタルリンクを活用し、医師・訪問看護師・薬局・事業所間で情報共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約を行い、24時間の連携を確保しております。よって早急な対応が行えご利用者の疾患や疾病を重症化させないよう努めています。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーはもちろん主治医の紹介状必要であれば依頼しております。退院時は、カンファレンスに参加し医療と介護の切れ目のないサービスを心掛けております。	入院時は、事業所から「看護介護サマリー」等で医療機関に情報を提供している。通常は面会に行き、医療連携室と情報交換を行っている。現在は面会が困難な状況であるため、主に管理者が、家族や医療連携室と電話で情報交換を行い、早期退院に向け支援している。入院中の状況は、「介護記録」で職員共有している。退院前の情報交換や調整も電話で行い、退院時には家族からの情報と共に、「看護サマリー」の提供を受け、介護計画の見直しを行い、退院後の支援に活かしている。	

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する指針の説明を行い、重度化した場合にも再度主治医と面談を実施し、看取りに向けて支援を行っております。また、職員に負担にならないよう配慮しております。	契約時に「重度化・看取り対応指針」に沿って、医療機関との連携体制や看取り対応に関する事業所の方針を丁寧に説明し、同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医から家族・事業所に状況説明があり、支援方針の検討、意向確認を行っている。看取り介護の希望があれば、事業所が「看取り介護についての同意書」で同意を得て、介護計画の見直しを行っている。主治医・看護師等と連携して、家族の意向に沿った支援に取り組み、支援についての経過は「介護記録」に記録している。毎年、「看取りについて」研修を継続的に実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議・外部研修に参加し、AEDの設置も完了しております。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練・定期的な消防設備点検を実施しております。自然災害に対しても訓練行っております。研修にて、報告書をスタッフに求め情報共有を行っております。	令和3年度は2回、昼間・夜間想定総合訓練を実施している。訓練には参加可能な利用者は参加し、また、できるだけ多くの職員が参加できるようシフト等を工夫している。訓練実施後には、写真付きで「防災訓練報告書」を作成し、良かった点・問題点・反省点を振り返る機会を設けている。訓練以外に「災害対策」研修を実施し、研修時に訓練の実施報告も行っている。倉庫に法人支給の非常食を3日分程度備蓄し、本社が内容や期限の管理を行っている。年度内に、水害訓練(垂直移動避難訓練)の実施を計画している。	訓練実施後に、「防災訓練報告書」の回覧や全体会議での報告等により、訓練に参加できなかった職員にも訓練の内容や評価について周知を図ることが望まれます。

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心や自尊心に配慮した声掛けや対応を行い、ご利用者一人一人の尊厳保持・プライバシーの確保を支援しております。	「コミュニケーション」「接遇」「認知症ケア」「虐待・拘束」等の研修で、人格尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。チェックリストの活用や、ユニット会議・「身体拘束適正化・虐待防止検討委員会」等でも、不適切な言葉かけ等について振り返る機会を設けている。個人情報に関わる書類は、各階事務所の鍵のかかる書庫で保管し、写真・映像の使用については事業所内掲示と「そよかぜ新聞」の家族への郵送に限定し、契約時に文書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定につなげる関りを心掛けております。また、自己の表現が困難な方においては、代弁機能としてその人になりきった対応を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症ケアとして、規則正しい生活は必要ですが一人一人の生活ペースと意向を把握して利用者本位のケア提供に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、身だしなみやおしゃれの支援を行っております。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットで利用者の状態に合わせてアレンジして作っております。調理の際の匂いや音など五感に働きかけております。	本社作成の献立を参考に、各ユニットの利用者の嗜好・摂食状況等に配慮した献立を立て、手作りの食事を提供している。献立には、利用所の希望・季節感・行事食も取り入れ、事業所の菜園で収穫した季節の野菜も食材に活用し、食事が楽しめるよう工夫している。敬老の日・母の日にはお弁当を外注する、誕生日をケーキや希望の献立で祝う、手作りおやつに利用者も参加する等、変化を楽しむ機会も設けている。職員も介助後同じ食事をとり、可能な利用者は下準備やテーブル拭き等に参加し、家庭的な雰囲気大切にしている。	

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は食事形態に工夫しながら対応しております。特に水分は、1500cc/日を目標に支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、起床時と就寝時の他、毎食後口腔ケアを実施しております。必要時に応じて、訪問歯科診療を受けて頂いております。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立は自尊心の自立と考え、排泄表を用いてトイレでの排泄が行えるよう支援しております。	「介護援助計画表」に、利用者個々の排泄介助についての詳細な手順や留意点を明示し共有している。タブレットや排泄チェック表に記録して排泄状況・排泄パターンを把握し、利用者個々の状況に応じた支援により、基本的には昼間はトイレでの排泄を支援している。夜間は安眠にも配慮し、利用者個々の状況に応じて対応している。利用者の状況に変化があれば随時検討し、連絡ノートで共有しながら、現状に適した介助方法や排泄用品の使用につなげている。内容に応じて、介護計画や「介護援助計画表」にも反映している。誘導時や介助時の声かけや対応等、プライバシーへの配慮を周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量1500cc/日を目標に、お通じに効果ある食事や飲み物を提供、体操などで自然排便を促すと共に、訪問看護とも連携しながら便秘予防と対応に努めております。		

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は、信頼関係を築く貴重な時間と考え、清潔保持の目的のみにならないよう配慮しております。お湯は都度入替え、機械浴も設置し重度化にも対応しております。	週2回・午前中の入浴を基本としているが、体調や希望に応じ柔軟に対応している。各ユニットの一般浴槽で、一人ずつ湯を入れ替え、自分のペースで入浴が楽しめるように支援している。「介護援助計画表」に、利用者個々の入浴介助についての手順や留意点を明示し、シャワー浴・2人介助・機械浴の利用等、体力や身体状況に合わせて安全に清潔保持できるよう支援している。同性介助の希望には同性で対応し、入浴拒否がある場合は日時・職員・声かけの変更等を工夫し、タブレットと「入浴チェック表」で入浴状況を把握している。入浴剤の使用等で、入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明の調節、職員の声トーン、寝具などの就寝環境に配慮し、安心して眠って頂けるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・訪問看護師・薬剤師・介護士の多職種協働で支援に努め、症状の変化など確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、個々にあった役割意識を持って頂くよう関りを行っております。趣味活動の提案も行っております。		

川西ケアセンターそよ風

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在、コロナ影響により外出できておりません。ベランダにて外気に触れる時間を設けるよう配慮しております。	通常は、年間行事計画を立て、外出行事として初詣・バラ園・紅葉狩り・外食・ドライブや、万博公園・五山送り火見物等の遠足的な外出支援を行っている。コロナ禍のため、これらの外出を休止しているが、時期を勘案して近隣の公園での花見、敷地内の菜園での戸外活動、ウッドデッキでの外気浴等、戸外で気分転換できるよう支援している。また、昼食前の体操や口腔体操、廊下での歩行や足上げ、レクリエーションでの体操やゲームなど、身体機能の低下予防に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に書面で同意を交わし、管理方法の統一しております。毎月、領収書と出納帳コピーをご家族様にお渡ししております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	センター内電話にて交流を支援しております。暑中見舞いや年賀状など字が書ける方にはお願いしております。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン温度調整や加湿器設置して快適に過ごせるよう配慮しています。生活感、季節感を取り入れた装飾などや馴染みの曲を流したり居心地の良く過ごして頂けるよう配慮しております。	各ユニットに、利用者と一緒に制作した季節の作品を飾り、テーブル席・ソファ席を配置し、季節感や家庭的な雰囲気が感じられる。加湿器・空気清浄器・パーティションの設置、換気・消毒・清掃等で、快適性・衛生面に配慮している。キッチンで手作り調理を行い、利用者が調理の下準備やテーブル拭き、洗濯ものたたみ等の家事に参加できるよう支援し、生活感を取り入れている。長い廊下は個別の歩行訓練に、菜園は園芸活動に、ウッドデッキ・ベランダ・中庭は外気浴等に、共用空間として利用者支援に活用している。	

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団生活の中でも、利用者同士が適度な距離感が必要と考え机の配置などレイアウトに配慮しております。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などお持ち頂いて、落ち着いて生活できるよう工夫しているとともに、ご本人の望むレイアウトに配慮しております。	各居室にバッド・クローゼット・カウンターテーブル等を設置している。利用者の状況や生活習慣等に応じて、畳に布団敷きの居室もある。鏡台・引き出し・椅子・仏壇・テレビなど使い慣れた家具や電化製品、馴染みの物が持ち込まれ、居心地よく落ち着ける居室づくりを行っている。花やぬいぐるみ等の好みの物も飾られており、その人らしさが感じられる。利用者担当職員を設け、掃除・整理整頓・衣替え支援等、家族と連携しながら居室の環境整備を行っている。立体的な表札や蛍光テープの目印を工夫して居室間違いを防止したり、利用者のADLや動線に配慮して随時家具の配置を考慮する等、利用者が安全に自立した生活が継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能に合わせ、生活リハビリを主としながらADLの維持を図っております。		